



## 集会には 150名が参加

日航は不当解雇を撤回せよ！ 福岡支援共闘会議主催 11.26 決起集会には約 150 名が参加。集会の後、福岡のメインストリートを元気よくパレードしました。快晴の福岡の空に、日本航空は不当解雇を撤回せよ！ 空の安全を守ろう！ のシュプレヒコールの声を響かせ、道行く人に支援を訴えました。

主催者を代表して、共闘会議の共同代表である憲法研究者の石村善三さん(左の写真の上)と自由法曹団福岡支部長の山本一行さん(左の写真の下)があいさつし、520 名も解雇した社会保険庁の分限免職の問題や NTT のリストラ問題等を取り上げて、闘う労働者の決意を述べました。



集会後元気よくパレード。先頭は原告の 4 名



## 不当解雇撤回は日本の労働者の権利を守るたたかい

原告団を代表し乗員原告の飯田祐三さんは運動の経過とともに裁判の状況や国際活動の成果等、解雇撤回闘争の経過と現状を報告。「日本中どこでも整理解雇や労働条件の改悪が行われており、JALの不当解雇は、日本の労働者権利を守る闘い。原告団 148 名全員の職場

守ろう日本の雇用 日本航空 復帰を必ず勝ち取りたい」と闘いの意義に触れ、勝利に向けた決意も語りました。



## 必ず復帰し安全・安心の JAL に変えて行く

客乗の原告団長内田さんは、現在の JAL の職場状況と安全確保の問題に触れつつ闘う決意を表明。利益第一主義を突き進む日航の経営施策を批判するとともに「JALは史上最高の利益を上げているが、職場は賃金や勤務が改悪されて疲弊している」「中堅の技術職などの退職が止まらず、安全運航が脅かされている」と指摘。「一日も早く職場に復帰し、安全・安心の日本航空に変えて行く」と、闘いの決意を表明しました。